

平成27年度

長岡京市立中学校米国短期交換留学事業

米国マサチューセッツ州
アーリントン訪問報告書

長岡京市立中学校米国短期交換留学協議会

はじめに

学校教育課総括指導主事

Head Chaperone

大木 義文

平成17年度から始まった米国アーリントン訪問は、昨年度10周年を迎え、本年度は米国短期交換留学事業へ装いをあらため、4月24日から5月5日までの12日間、中学生16名、高校生10名、引率者5名の計31名で訪問してきました。

今回は、天候にも恵まれ、大きなけがや病気もなく、予定していた全メニューを全員が無事に消化することができました。

昨年は私自身がこのプログラムに参加するのが初めてであり、余裕はありませんでしたが、今年は少し余裕もでき、生徒たちを落ち着いて見守ることができました。

慣れない異国の地で日本語の通じない環境ですので、生徒たちは『うれしい』や『楽しい』だけでなく、たくさんの『ストレス』や『苦しみ』も感じていることが見て取れました。

しかし、「かわいい子には旅をさせろ」とはよく言ったもので、ストレスは成長の原動力になります。ストレスを乗り越えた先には成長が待っています。そして達成感や満足感といったポジティブな感情が高まります。ストレスは大きければ大きいほど、難儀であればあるほど乗り切った時のポジティブな感情も大きいものとなります。

今回の訪問というのは単に語学学習や国際理解という価値だけでなく、困難に立ち向かい、乗り越えようとする自立した人間形成として極めて価値の高い訪問であったと確信しています。

ここに綴られた手記から、アーリントン滞在を経験した生徒たちの成長と次のステージに向かおうとする強い決意の一端を読み取ることができます。

近い将来、彼らがそれぞれのネクストステージへ駆け上がり、羽ばたいてくれることを期待してやみません。

今回の訪問を通して、アーリントンの方々に改めて感謝を申し上げたいと思います。小・中・高等学校での歓迎はもとより、ハイスクールのポップスコンサートや中学校でのオトソンプレイ、タウンミーティングでの紹介など、まちをあげての歓迎をしていただきました。さらに、ホストファミリーの子どもたちへの懇切丁寧な対応にも頭の下がる思いでありました。

本事業の実施にご支援いただきました関係者の皆様に、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

目 次

はじめに

I 訪問の部

- 1 訪問団員名簿 1
- 2 訪問日程 2
- 3 生徒感想文 3
- 4 アーリントンだより 17

II 来訪の部

- 1 訪日団員名簿 37
- 2 訪日日程 38
- 3 訪日団引率者挨拶 39
- 4 訪日団生徒挨拶 40
- 5 アーリントン訪日団友好紀行 41

I 訪問の部

1. 訪問団員名簿

中学生訪問団

役職・学年	氏名	備考
団長	大木 義文	長岡京市教育委員会 総括指導主事
引率	ポイル・コナー	英語指導助手
引率	小川 紀子	国際理解教育交流指導員
2年	田中 紅実	長岡中学校
2年	荻野 紗瑛	長岡中学校
3年	箕浦 夕紀	長岡中学校
3年	堀 遥香	長岡中学校
2年	鎌倉 優子	長岡第二中学校
2年	久野 凌雅	長岡第三中学校
2年	牟田口 皓史	長岡第三中学校
3年	山本 優芽	長岡第三中学校
3年	長谷川 永真	長岡第三中学校
3年	荻野 奈瑠美	長岡第三中学校
2年	井根 翼	長岡第四中学校
2年	高橋 凜帆	長岡第四中学校
3年	仲田 万佑子	長岡第四中学校
3年	関谷 嶺太郎	長岡第四中学校
3年	宇佐美 友基	長岡第四中学校
3年	本江 桜子	長岡第四中学校

高校生訪問団

役職・学年	氏名	備考
団長	西山 尚幸	西乙訓高校 英語科教諭
引率	飯原 明子	西乙訓高校 英語科教諭
2年	山本 隼佑	西乙訓高校
2年	上田 千鶴	西乙訓高校
2年	柳瀬 優乃	西乙訓高校
2年	高木 貫	西乙訓高校
2年	和田 凜	西乙訓高校
2年	田淵 梨加	西乙訓高校
2年	夫馬 隆乃慎	西乙訓高校
2年	北田 龍輝	西乙訓高校
2年	長尾 祐希	西乙訓高校
2年	土井 彪月	西乙訓高校

2. 訪問日程

月 日(曜日)	時 刻	行 程
4月24日(金)	11:30	長岡京市 発
	12:30	伊丹空港 着
	14:40	伊丹空港 発
	16:00	成田空港 着
	18:20	成田空港 発
	17:55	ボストン空港到着後、各ホストファミリー宅へ移動
4月25日(土)	8:00	シックスフラッグス訪問
	18:00	ホストファミリー宅へ移動
4月26日(日)		ホストファミリーデー
4月27日(月)	7:00	オトソン中学校で授業体験
	19:30	タウンミーティング見学
	20:30	ホストファミリー宅へ移動
4月28日(火)	8:30	ロビンス図書館見学
	10:15	フェンウェイパーク見学ツアーに参加
	12:00	ファニユエルホール訪問
	14:00	州議事堂見学
	15:00	ホストファミリー宅へ移動
4月29日(水)	8:15	ダーリン小学校で交流プログラムに参加
	12:00	ハーバード大学見学
	18:10	ボストンレッドソックスの試合観戦
	22:30	ホストファミリー宅へ移動
4月30日(木)	10:00	バタフライプレース、キンボールファームで自然体験プログラムに参加
	16:00	ホストファミリー宅へ移動
5月1日(金)	7:45	オトソン中学校、アーリントン高校で交流プログラムに参加
	20:30	ホストファミリー宅へ移動
5月2日(土)	8:30	レキシントン、コンコードで歴史見学ツアーに参加
	18:00	ホストファミリー宅へ移動
5月3日(日)	12:00	クジラ観測船に乗船
	18:00	フェアウェルパーティーに参加
5月4日(月) ～ 5月5日(火)	13:15	ボストン空港 発
	15:55	成田空港 着
	18:30	成田空港 発
	19:55	伊丹空港 着
	20:15	伊丹空港 発
	21:00	長岡京市 着

3. 生徒感想文

長岡中学校 二年 田中 紅実

私は、ホームステイはもちろん、日本から出るのも初めてだった。緊張感はとてもあったが、それ以上に、アメリカはどんなところなのだろうという好奇心があった。長岡京市に帰ってきた今、一番心に残っている思い出は、ボストンレッドソックスの野球観戦とフェアウェルパーティーだ。

レッドソックスの野球観戦は、興奮しっぱなしだった。野球観戦自体初めてだったということもあるが、みんなで作るウェーブであったり、みんなで歌う歌であったり、本当に初体験ばかりで、夜遅くまであったのに全く眠くならなかった。

フェアウェルパーティーではたくさん笑って、たくさん食べて、たくさん泣いた。最初は、写真を撮ってみんなと喋って楽しんでいたが、終わりに近づくにつれて、ああ、もう帰らないといけないんだ。お別れなんだ。と思い、だんだんと悲しくなり泣いてしまった。

楽しい思い出しかなかった。何もかもいい経験だった。アーリントンの人達はとてもフレンドリーで、一緒にいてとても楽しかった。私は絶対に、団員、アーリントンの人達、この経験を忘れないだろう。長岡京市の代表としての思いを持ち、体験してきたことを必ず未来につなげたい。

長岡中学校 二年 荻野 紗瑛

本当にあっという間だったアーリントン交流プログラム。私はこの12日間で、成長の糧となる新しい発見や経験をたくさん、とてもたくさんした。その中で私は、特にこれはすごいと感じたことを紹介しようと思う。

その一つに、現地の人たちのフレンドリーさに魅力を感じたことがある。アメリカ人に「人見知り」な人はいるとは思っていたくらいだ。オトソン中学校へ行って、現地の生徒と一緒に行動するシャドーイングをした時だ。各授業で席が近くなった子に「名前は何？よろしく！」と言われた。私がもしアメリカ人なら絶対に声をかけることはできないと思う。人見知りだし、ましてや言葉が通じるかも分からない異国の人に声をかけるなんて無理だ。でも、声をかけてくれたその子はとてもフレンドリーで、帰る時も「グッバイ〜イ」と笑顔で言ってくれた。とても嬉しかった。その子に限らず、店の人やホストファミリーもとてもフレンドリーだった。私はアメリカの人たちが大好きになった。

私もアメリカの人たちのような優しく誰とでも仲良くできる人になりたい。

長岡中学校 三年 箕浦 夕紀

アーリントンに行って一番感じたのは、初めて会う人でも馴染み易い雰囲気だったということです。日本とは違って、多くの国籍の人が入り混じっているのが普通で驚きました。そんなアーリントンの方々は皆コミュニケーション能力が高く、異文化理解を本当に自然に上手にされていて、とてもすごかったです。実際に私も日本について質問して頂いたのですが、言葉や態度の全てから話をしっかり聞こうとして下さっているのが伝わってきて、とても楽しく話すことができました。その中で、私は自分も相手にそのような対応がちゃんとできているのかと気になりました。例えば、アメリカの方は話す前から日本のことをよく知っていらっやっや、そのうえでの質問だったのでとても濃い内容を話せましたし、たとえ私が英語を上手く話せなくても我慢強く待ち、さり気なくフォローして下さりました。このような対応が自然にできているからこそ、初めての慣れない人間でも馴染み易くなるということを痛感しましたし、本当のコミュニケーション力とは、こういうことだなと身をもって体験でき、自分はまだまだ力不足だと感じました。

今回、慣れない時にフォローしてもらった嬉しさや感謝の念を忘れず、たくさんの方と上手に交流できるようにこれから頑張りたいです。

長岡中学校 三年 堀 遥香

この12日間は、私にとって本当に最高の12日間でした。私が一番日本と違うと感じていたことは、アメリカ人のフレンドリーさです。私達はプログラム中に、アーリントンにある小学校、中学校、高校に行ってたくさん生徒達とふれあうことができました。初めに行ったオトソン中学校では、一人の生徒と丸一日行動を共にして授業を受けました。最初、私は一日大丈夫なのかとても不安でした。そんな私に、たくさん生徒達が話しかけてきてくれました。本を貸してくれたりもして、前から友達だったみたいで本当に嬉しかったです。高校でもメッセージを書いてくれ、小学校でも習字を喜んでくれて、こちらとても楽しかったです。

学校だけでなく、ホストファミリーの家や外食をしに行ったレストランなどでも、知らない人にでも友達のように接しているところがとても良いなと感じました。心が暖まりました。

私の世界が、アーリントンに行き、たくさんの人と触れ合い、たくさん場所に行ったことで大きく広がりました。これからは、長岡京市だけでなく、日本だけでなく、世界を見て、感じて、生きていきたいと強く思っています。最高の12日間でした。より多くの人にこの感動を味わってほしいです。

長岡第二中学校 二年 鎌倉 優子

私は 12 日間アメリカに短期留学して、たくさんのことを学び、そして楽しい思い出がたくさんできました。私がアメリカで驚いたことは二つあります。

一つ目は、いろいろなことが自由なことです。私が中学校を訪ねて授業を受けたとき、生徒が机の上に座っていたり、理科の実験で使ったケーキをそのまま食べていたりしました。日本はやはり色々なことにしっかり規則やルールがあるのだと改めて思いました。

二つ目は、本当に気さくな人が多いということです。私はアメリカで誕生日を迎えました。その日、オトソン中学校の生徒に誕生日の歌やメッセージをたくさんもらいました。初対面の私にしてくれたのには本当に驚いたし、すごく嬉しかったです。

私がこの 12 日間で学んだことは、普段の生活では学べないようなことばかりでした。このような本当に貴重な経験を中学生でできたことが本当に嬉しいし、この経験のことを、長岡第二中学校でもたくさん伝えていきたいと思いました。

長岡第三中学校 二年 久野 凌雅

僕がアーリントンに行って一番思い出に残っているのは、ホームシックになったことです。

今思えば笑い話ですが、母から出発前に「ホームシックならんときや」と言われ、「はい」と言っていたものの、内心「絶対なるわけない」と思っていました。しかし、アーリントンに着いて、ホストファミリーに会って、家に行った時に、淋しい、早く帰りたいと思ったのです。なぜなったのでしょうか。多分、一人で英語も全然話せない上に、初対面のホストファミリーと一緒にいるのがつらかったのだと思います。そして、アメリカの食事が口に合わなかったこともありました。その上、僕を追い詰めたのは、ホストファミリーの子どもでした。分からない英語をすごく速く言ってきて、全く理解できない僕は、どん底に突き落とされました。そんな時に助けてくれたのが、一緒に来ていた仲間や先生、ホストファミリーでした。ホストファミリーは、ゆっくり分かりやすい英語で話してくれて嬉しかったです。訪問して四日目ぐらいから、ホームシックは治っていきました。僕はその時、人間として成長したのを感じました。これが、僕の一番の思い出です。

最後に、アーリントン訪問団に関わって下さった皆様、いつも支えてくれた仲間、先生、そしてアーリントンに行かせてくれた家族、本当にありがとうございました。

長岡第三中学校 二年 牟田口 皓史

僕は、ボストンレッドソックスの野球観戦が一番アメリカで興奮したことです。僕は野球にあまり興味が無く、試合観戦がどのようなものか上手く想像できていませんでした。そして当日は、野球が好きな訪問団員が「すごい」「これが一番楽しみだった」と言っていたけれど、試合開始まではなぜだろうと思っていました。しかし、試合が始まって、選手が活躍する度に球場がすごく盛り上がると、自分もつられて叫んでいました。すると、だんだんと楽しくなってきた、野球ってこんな見ているの楽しいものなのかなと思えるようになり、もうすっかり野球を見ているのが一番の思い出になっていました。そして、試合観戦に熱中してしまい、上原選手が出てきてもっと興奮しました。けっこう近くでピッチングも見られて、とても格好良かったです。試合中で一番盛り上がったのは、ウェーブをし、スウィートキャロラインを歌った時で、観客の皆が一つになった気がしてとても楽しかったです。また観戦に行きたいと思いましたし、一番の思い出になりました。

長岡第三中学校 三年 山本 優芽

私がアーリントンに行って一番に感じたことは、言葉が違って一生懸命に伝えたいと思えばちゃんと伝わるということです。私は伝えたいけど英語が分からないときは、一生懸命にジェスチャーしてみるとちゃんと伝えられてすごく嬉しかったということがたくさんありました。また文化が違うというのも、とても印象深かったです。中学校も日本とは全然違って自由な感じで、私生活の面でも家の中で靴を履いていたり、お風呂などもいつもと違うので楽しい時間が過ごせました。驚いたのは、アメリカ人のフレンドリーさが私の思っていた以上だったことです。アーリントンに行ったばかりの時は不安でしたが、アメリカ人のフレンドリーな雰囲気のおかげで安心することができました。ホストファミリーもとてもいい人で、はじめて会った時もとても歓迎してくれて嬉しかったです。

アーリントンでたくさんの場所に行って、たくさんの人に出会い、たくさんのことを学びました。学んだ中で一番大切だと思ったのは挑戦することの大切さです。アーリントンに行って私はたくさんの挑戦をしました。英語で自分から質問などをして話しかけて、会話がはずんだりしたことがとても嬉しかったし、挑戦してよかったと思えました。アーリントンに短期留学するという体験はなかなかないチャンスでした。私は他のアーリントン訪問団員やホストファミリーと出会えたことで、一生の中で一番とっていいほどたくさんの楽しい思い出をつくることができ、幸せでした。また、自分自身がとても大きく成長したし、可能性が大きく広がったと思います。この経験は一生忘れない幸せな思い出です。

長岡第三中学校 三年 長谷川 永真

このアーリントン訪問で一番印象に残っていることは、ボストンレッドソックスの野球観戦です。でもそれ以上に人との出会いがあったと思います。一緒にアーリントンを訪問した訪問団員、先生達、ホストファミリー、それ以外にも訪問先で出会った人達など、本当にたくさんの人と出会い、色々な思い出が印象強く残っています。中学生と高校生は、三か月という短い学習会の期間の中で出会い、お互いの事をあまり知らないままアーリントンに行ったと思います。私は、学習会の雰囲気にもあまり馴染めていませんでした。でも、アーリントンに行ったら本当の自分を出すことが出来て、学習会の時よりもみんなともっと話すことができたと感じました。最高のメンバーです。

その中でも、ホストファミリーと出会えた事が一番の出会いだと思います。ホストファミリーと会う前は、いろんな期待の中にたくさんの不安がありました。その不安を消してくれたのはホストファミリーです。不安でいっぱい私を優しく迎えてくれて、私の話が全然伝わらなくても真剣に聞いてくれる、そんなホストファミリーに出会えたことが一番の出会いだと思います。

この経験を生かして、私は将来、外国と繋がりのある仕事をし、人との出会いを大切にしていきたいです。

長岡第三中学校 三年 荻野 奈瑠美

私は、一年生の時アーリントンに行く試験を受けるように周りの人に勧められたり友達に誘われましたが、一人で知らない人の家に泊まったり言葉の通じない場所に行くのが怖かったので断りました。しかし、実際に行った友達が帰ってきて話を聞いているうちに、行ってみたいと思うようになり、こうしてアーリントンに行けたことがとても幸せです。

実際に行ってみたら、おしゃれな街並みや文化など、興味を持つことだらけでした。野球も全然知らなかったけど、ボストンレッドソックスの試合はとても興奮しました。ボストンの街も、日本のどこに行っても見られないようなところで、本当に夢の世界に行っているような気分でした。食べ物も面白いほど大きいものが多く、驚いてばかりでした。

しかし、私が一番強く感じたことは人柄の良さです。アメリカ人は、近所の人同士でも下の名前で呼ぶためか、とても仲良く感じたし、挨拶もすれ違うすべての人にしていてすごいなと思いました。学校に行った時も、全然英語が喋れない私に簡単な英語で教えてくれたりして、多くの人が話しかけてくれて嬉しかったです。ホストファミリーもずっと明るく優しく、難しい言葉があれば調べてくれるなど、たくさん困らせたと思います。だから、私はもっと英語が喋れるようになって、もう一度ホストファミリーに会いに行きたいと思います。

長岡第四中学校 二年 井根 翼

アーリントン訪問団では、家族旅行とは比較ができないくらい貴重な体験を沢山することができました。アメリカ人はもちろん、訪問の数か月前に出会い、一緒に学び成長した仲間と、友達という言葉では言い表せないほど大切だと思える仲になることができました。そんな仲間と、本場の英語や、日本とアメリカの違いを肌で感じることができました。

全てがいい思い出ですが、一番印象的だったのはオトソン中学校での演劇鑑賞や授業体験です。僕も長岡第四中学校の文化祭で演劇を経験しましたが、オトソン中学校の劇は中学生とは思えないほどの迫力で、劇中に何曲か歌もあり、僕たちのものとは盛り上がり方が全く違いました。授業体験では、ホストブラザーと一緒に行動し、数学、社会、体育、技術や英語の授業を受けました。もちろん全て英語だったので授業内容はよく分からなかったけど、数学だけは発言することができ、少し嬉しかったです。

日本では、ほとんどの科目でクラスメイトと一緒に授業を受けます。しかし、オトソン中学校では、生徒それぞれに違ったカリキュラムが組まれていて、一人一人時間割が異なり、毎時間別々の教室に移動します。自分できちんと把握して動かなくてはならず、アメリカの自主性を感じました。

僕は将来外国で仕事をしたいです。アーリントンでの経験を通して、その夢がもっと膨らみました。これからも、英語学習はもちろん、色々なことにチャレンジをして海外でも通じる自分になりたいと思います。

長岡第四中学校 二年 高橋 凜帆

私は、アーリントンに行くための面接の時にすごく緊張して不安でした。でも、結果の通知が入った封筒の中を見た時に飛び上がりました。本当に嬉しくて泣きそうでした。勉強会に行ってもあまり実感がわかなくて、毎回必死でした。今回アーリントンに行くためには、両親や先生たちにも協力してもらって、たくさんの人が関わってくださいました。だから、しっかり勉強して、今回のアーリントン訪問を成功させたいと思いました。

出発当日、仲間と一緒にバスに乗り込みました。すごく緊張していて、不安で心配もありました。でも、みんなとこれから楽しめると思ったら、自然と楽になっていきました。アーリントンに着き、初日はホストファミリーとあまり上手にしゃべれなかったけれど、日が経つにつれてだんだん話ができるようになってきました。とても嬉しかったし、英語力がついてきたと思いました。一緒に行った他の訪問団員とも日が経つにつれて仲良くなってきたし、高校生とも絆が深まってきたと感じました。アメリカの歴史についても学習できたし、学校の習慣についても学べました。とにかく、あっという間の12日間でした。帰るときも、まだ帰りたくない、もっとみんなと一緒にいたいと思いました。

今回の訪問は、学習面ではもちろん、人間としても成長できたと思います。人生に一度あるかないかの経験ができて本当に良かったです。

長岡第四中学校 三年 仲田 万佑子

私は中学生女子のリーダーをさせて頂きました。リーダーになると決まった時は、本当に驚いたのと同じ時に、私にリーダーが務まるのか不安でした。学習会の時は、ほとんどリーダーとしての役割はありませんでした。でも、実際アーリントンに行くと、リーダーとしてすべきことが数多くあり、それと共にたくさんのごことに気付くことができました。

一つ目は、何でも積極的に挑戦してみることの大切さです。私はアーリントンの小学校でスピーチをさせて頂きました。スピーチをする前は、とても緊張していました。でも、「頑張って積極的に笑顔で挑戦しよう」と気持ちを切り替え、精一杯スピーチをしました。小学校の子供たちは私の方を向いて真剣に聞いてくれました。その時、私はとても幸せで、挑戦することの楽しさを知りました。

そして二つ目は、仲間の大切さです。英語も特別上手なわけでもなく、リーダーシップがあるかというところでもない私に、みんな優しく接してくれました。このように、心優しい仲間がいてくれたからこそ、楽しくアーリントンで活動でき、リーダーを務めることができたのだと思います。スピーチが終わった後も、「良かったよ」と言ってくれた人もいて、とても嬉しかったです。

アーリントンを訪問する機会を与えてくださった皆様、英会話レッスンや現地アーリントンでお世話になり、引率して下さった先生方、そして一緒にアーリントンで活動した十五人の仲間、十人の高校生に感謝します。本当にありがとうございました。この経験を活かして、様々なことに挑み、仲間を大切にしていきたいです。

長岡第四中学校 三年 関谷 嶺太郎

今回の訪問で、僕はたくさんのごことを学び経験しました。今振り返るととても充実していて、間違いなく自分の成長につながった12日間だったなと思います。アメリカという国は、やはり何もかもが日本と違って見えるように見え、新鮮かつ刺激的なところでした。そんな環境の中でホームステイをして過ごすという不安は、ボストン空港へ着いた時ようやく出始めました。しかし、ホストファミリーの方々には自分を家族の一員として扱い、とても暖かく接してくれました。いつの日か、また必ず会いに行くという約束までしました。普段の生活にしても、土足で家に上がったたりするなど、日本で馴染みのない場面が多くて非常に興味深かったです。

今回の訪問でたくさんのご事を学んだと共に、自分の英語力のなさを痛感しました。けれど、この経験は自分の今後を見つめ直すきっかけとなったので良かったと思います。実際、僕は以前よりも間違いなく英語に対する意識が高まりました。

今回学んだこと、体験したこと、実感したことは一生忘れることのないとても貴重なものだったと思います。サポートして頂いた方々には本当に感謝しています。そして将来、今回の留学経験があつて本当に良かったと思えるよう、活かしていきたいです。

長岡第四中学校 三年 宇佐美 友基

私がアーリントンでの 12 日間で一番驚いたのは、中学校生活です。

まず、アメリカの授業はユニークで楽しいものだと感じました。雑談から始まる授業だったり、タッチパネル式のボードを使った授業だったり様々でした。さらに、そんな授業を受ける生徒たちの顔も満面の笑顔でした。しかし、そんな楽しい授業でも、学習が始まると真剣な表情に変わっていました。日本とは違う学ぶ意識がそこにありました。

また、生徒や先生たちのフランクさを感じました。初めて会ったのに「Hello!」「What's your name?」と気軽に話しかけてくれました。日本人のコミュニケーション力の弱さも感じました。

実は、その中学校には日本人も通っており、その人にも声をかけられました。その後、名前を呼ばれた彼女は流暢な英語で返事をし、去っていきました。その瞬間、彼女は私の目標になりました。

アーリントンの生徒たちは、気さくで優しい素晴らしい人たちで、自分から勉強したいという気持ちも強い人たちでした。アーリントンの中学生や、毎日楽しく過ごすあの日本人の生徒に負けないように頑張っていきたいです。

長岡第四中学校 三年 本江 桜子

今回のアーリントン訪問で、強く印象に残っていることが二つあります。

一つ目は、オトソン中学校での授業体験です。私は一人の生徒とペアを組んで、その生徒と一緒に学習しました。その日は数学や技術、体育、フランス語、理科がありました。数学は計算問題で私も発言することができ、満足感を感じました。オトソン中学校では、フランス語の授業は全てフランス語で話されていました。日本でも英語の授業は全て英語にした方が日本人の英語力も上がるのではないかと思いました。お昼はカフェテリアで食べ、ペアの生徒がたくさんのお友達を紹介してくれました。

二つ目は、ホストファミリーとの生活です。ホストファミリーは私の紹介する日本のことに興味をもって来て、特に一番末っ子の女の子は折り紙に夢中でした。ホストファミリーは私と家族同様に接してくれました。またアーリントンに行く機会があれば、日本のことにもっと詳しくなってから行きたいです。

アーリントンでの滞在三日目、ホストファミリーデーに、僕は家族全員でボストンへ行きました。タッカーとソフィは習い事のため途中で別行動となり、僕はジョアンとゲイリーに様々な所へ連れて行ってもらいました。その中にジャパニーズフェスティバルという祭りがありました。そこで早くも、僕はアーリントンで受けた刺激の中で最大級のものを経験することになりました。

その祭りは、多くの日本人スタッフとアメリカ人のボランティアによって運営されていました。日本人スタッフの多くは大学生で、英語をとて上手に話せるというわけではありませんでした。けれど、とても熱気があり日本の文化をアメリカの人々に必死に伝えようとしていました。彼らの必死さとその会場のにぎやかさに、感動したのか驚いたのか、自分でもよくわからない感情と鳥肌に襲われました。

今では日本の文化が世界に知れ渡り、ラーメン店がヨーロッパ各地に進出し、寿司と言えば多くの外国人にも伝わるような時代で、僕はそのことを何とも思わずに先進国だからという考えで止まっていた。けれど、あの祭りのように世界の人々に日本文化を必死に伝えている人がいて、その人々のおかげで世界の人々が日本に対して関心を持ってきているということが身を以てわかりました。

この先、大学生や社会人になっても異文化交流というものに関わっていき、日本と海外との人々・文化の懸け橋になれるような、そんなことをしていきたいです。短期間で多くの刺激を受け、様々な体験をすることができ、アメリカだけでなく日本についても知ることができました。この経験をまた違う場で生かしていきたいです。

ありがとうございました。

私はこのアーリントン訪問で、たくさんの経験をしました。飛行機に乗ること、外国に行くこと、ホームステイをすることなど初めて経験することばかりでした。最初はとても不安でとても緊張していました。しかし、ホストファミリーに会って話していると、いつの間にか不安や緊張はなくなっていました。

初めは間違えるのが怖くて、言いたいことがあっても話すことができなかつたけど、ホストファミリーもほかのアメリカの人々も私の下手な英語を聞いてくれたり、私にもわかるようにゆっくり、何回も話してくれたりしたので、私は下手でも言いたいことを言うことができました。間違えるのを恐れて話さないと、相手に自分が思っていることやしたいこと伝えることができないから、下手でも単語だけでもなんでも話すことが大切だと思いました。

アメリカの人々はとてもフレンドリーで、全然知らない店員さんと話をしたり、中学校で一日だけ一緒にいた女の子はメールアドレスを交換するほど仲良くなったりと、いろんな人が積極的に話しかけてくれました。私はいつも消極的になってしまうので、アメリカの人々を見習って、積極的に話すことができるフレンドリーな人になりたい、ならなければならないと思いました。

私は後悔していることがあります。それは、もっとホストファミリーやアーリントンの人々と話をしたかったということです。私の英語が下手だったり、知らないことがあったりしたので、英語を話せるようになって、いろんなことを勉強してからまたアーリントンに行って、ホストファミリーやアーリントンの人々とたくさん話したいと思います。

私がアーリントンに行って様々なことを体験できたのはホストファミリーや家族や先生方などたくさんの人々の支えがあったからです。支えていただいたことに感謝してこの体験を今後生かせるようにしたいです。

西乙訓高校 二年 柳瀬 優乃

アーリントン訪問で私は充実した日々を過ごした。覚悟していたよりも大きく異なる文化や、考えていたよりずっと忙しく過ぎる日々に、すごく疲れたけれど、とても楽しく、いい経験ができた。

期待や不安を連れてアーリントンの地に立った日、初めて会うホストファミリーは、とても親切で優しくとても安心したことを私は覚えている。最初は目を見て会話することや思っていることを伝えることに精一杯で、疲れを感じる暇などなく一日を過ごした。けれど、そんな生活が三日程続くと、ようやく疲れを感じる余裕ができた。とっさに出た日本語が伝わらない辛さ、常に集中していなければならない緊張感、どうしても口に合わない食生活に、私は改めて日本の素晴らしさを実感した。

楽しさと並ぶ程の疲れに、私は内心とても焦っていた。明らかに平熱より高い体温に、食欲もなく、英語と関わる時間を減らすために部屋にこもったりもした。団の皆は常に楽しい、楽しいと言っていて、自分だけ置いて行かれたような感覚に不甲斐なさを感じ、とても悔しかった。

けれども、ホストファミリーはどこまでも優しく、焦りを振り払うように踊った鳴子踊りを見てベストダンサーと褒められたことに、次はその疲れをも楽しむ余裕が出てきた。わからなくて当たり前、と何度も心の中で唱え、その当たり前を当たり前のままにしておかないことを目標にすると、その先の「楽しい」をやっと全身で感じられるようになった。

私の「精一杯」から始まったアーリントン訪問は、「しんどさ」が加わり、そして最後にはその二つをまとめて「楽しむ」で終わることができた。そしてその楽しみと同時に見つけた自らの課題や外国人との関わり方は私の宝物だ。私はこれを宝物のままにしておくつもりはない。どう磨くかは自分次第だ。

僕はアメリカに行って気づいたことが三つあります。その三つ以外にも気づいたことはたくさんありますが、特にその三つによってアメリカに対するイメージが変わりました。ここでは、そのことについて述べたいと思います。

一つ目は、英語についてです。気づいたのは今まで話していた英語がある程度通じたことです。今までやってきた英語は決して間違いでなかったと気づきました。しかし、ある程度しか話せないことにも気づかされました。自分は正しい方向に進んではいますが、その方向に少ししか進んでいないことに気づいたのです。

二つ目は、「黒人」についてです。僕は映画が好きなので黒人差別に対する映画もいくつか見てきました。だから僕の印象では差別はもう完全になくなったものだと思っていました。僕はアメリカでその差別の場面に出くわしたわけではありませんが、「白人」と「黒人」が一緒に固まったり、話していたりする光景を見なかったことに気づきました。12日間という短い期間だったからかもしれません。しかし、僕はあまりその光景を見ませんでした。また、僕はなぜホストファミリーに「黒人」の家庭がなかったのだろうかという疑問に思いました。なぜかは僕にはわかりませんが、「人種」について日本にいと気づきにくいことを経験しました。

三つ目は、自分の世界の変化です。帰国後の僕の世界は広くなった面と、狭くなった面がありました。狭くなったのは、僕の感覚です。アメリカが感覚的に近い存在になりました。最初、アメリカに抱いていた恐怖がなくなりました。広がったのは、知識です。アメリカに行ってわからなかったことが理解できるようになり、また知らないことも増えました。この自分の世界の変化に気づくことができました。

私は今回の訪問でいろいろなことを学び、体験することができました。

私は学校を訪れた時に、日本の教育との違いを実感しました。日本では、先生が黒板を使って説明し、それを生徒が聞いて学ぶというのが主なスタイルですが、アーリントンではグループワークが多く、日本の授業と比べるととても自由な感じがしました。日本とアメリカでは「学問」というものの捉え方が違うところがあるのではないかと思います。

食生活にも違いを感じました。日本の夕食は、おかず、米、味噌汁のように何品かあり、それらを皿等に小分けして食卓に並べますが、アメリカでは一人ひとつ大きなお皿を持ってバイキングのような感じで、日本と食のスタイルが違うなと感じました。また、お菓子にはたくさん砂糖が使われていて、とくにアイスクリームは砂糖の量が多すぎてジャリジャリとした食感で少し戸惑いました。

学校での話に戻りますが、長岡京市の中学校や高校では、制服があり、頭髮の加工やピアスなどは禁止されています。ですが、アーリントンでは制服はなく、髪もピアスも自由です。なので、日本の学校では「規則」を尊重し、アメリカでは「個性」を尊重していて、「自由の国アメリカ」を実感しました。だから、明るく気さくな方がたくさんいるのではないかと思います。

アメリカにはたくさんの人種の方が生活していました。なので、日本人の顔つきの方もたくさんいたのですが、外国語を話しておられ、とても不思議な感じがしました。

今回のプログラムを通して、日本では感じることのできないことがたくさんできて、いろんなものを見て、触れることができました。私の16年間の人生で一番忙しく、一番内容の濃い10日間にすることができました。

西乙訓高校 二年 田淵 梨加

私が一番刺激を受けたことは、中学校・高校訪問の授業体験です。もともと私は落ち着きがなく、授業を静かに聞き続けることが苦手です。実際、現地の学校でもそうってしまうことが多々ありました。そんな状況でも、目が覚めるほどすごい！！と思ったことがあります。それは、中学生・高校生の授業への意欲的な態度と気持ちです。まず寝ている人はほとんどいません。実際は寝ないのが普通ですが、日本の学校では寝てしまう人が多いのが印象的です。しかし、現地の生徒は参加的で、先生までもが授業に生徒が飽きないような工夫をされていました。授業に疑問や興味をもてるのは、いかにその授業に集中し、理解できているかが大切だと思います。

この訪問を経験してから、自分の通う高校での授業態度を振り返ってみると悪いところばかり挙げてきます。住んでいる国は違いますが、同じ年齢で何事にも一生懸命取り組んでいる人がたくさんいます。それなのに、私はやりたくないという理由でいやなことから逃げてきました。自分がどれだけだめな人間かということを、身をもって体験でき、またこれから自分はどう高校生活やこれからの人生を過ごすか深く考えるきっかけとなりました。

そして、ホームステイをすることもまた私の考えを変えてくれました。初日は話を切ってしまうたり、何度も聞き返してしまったりして、自分の英語力の拙さに落ち込みました。頭の中はそのことでいっぱい、次の日の明け方、私はいてもたってもいられず、自分なりに会話を作ってみました。この時、私は本当に英語が好きなのだと気づかされました。この気持ちを忘れず、いつか英語が話せるよう、努力を惜しまずに頑張りたいです。

アーリントンでは、驚きと楽しみでいっぱいでした。まず驚いたのは、アメリカの人たちのフレンドリーさです。例えば向こうの子ども達とフットボールをしているときに、知らない子がどんどん入ってきて、みんな知らない間に仲良くなっていました。ほかにもハーバード大学のトレーナーを着ていると、「あなたはハーバード大学に通っているの?」と、高校生からおばあさんまでいろんな人に聞かれました。本当にみんなフレンドリーで、すぐに仲良くなれました。僕も、マサチューセッツ州や、アーリントンの人達が来たら自分もたくさん話しかけて、仲良くなりたいです。

この12日間で一番楽しかったのは、フットボールをしたことです。アメリカの子どもは、みんなフットボールが出来て、自然に人が集まってくるし、仲良くなれるすごいスポーツだと思いました。僕はフットボールを通して仲良くなろうとする事の大切さを学びました。なのでこれから、自分からどんどん仲良くなれるようになりたいです。

そして、もう一つ楽しかったのは、ホストファミリーと過ごした時間です。初めて会った時は、緊張したけど、僕を家族のように扱ってくれて、本当にうれしかったです。ホストファミリーは、僕にいっぱい話しかけてくれたけど、最初は全然わからないし話せないしで、とても辛かったです。でも、ホストブラザーがゲームやスケボーと一緒にしようと言ってきてくれて本当に助かりました。なので、自分が受け入れる時も、その人が緊張せずに楽しめるようにしてあげたいです。

この体験で僕が学んだのは、自分の意思を伝える事の大切さです。水が欲しい時や、おかわりがいらぬ時などに自分からYESやNO、これが欲しいや、あれをしたいと、自分から言わないと気づいてもらえないからです。これからは、日本でもしっかり自分の意思を伝えられるようになりたいです。

僕はこのアーリントンプログラムに参加して、本当に貴重な経験をしました。日本とアメリカでは全然文化が違うので、最初は慣れませんでした。やっぱり最初に文化の違いを実感したのは言語でした。

僕達にとって普段使わない英語という言葉は日常で使うことがあまりないのでとても体力を消費するものでした。アメリカに行けば、家族といっても一人でいても英語しかないので日本語を使えない時間が多くなりました。なので、アーリントンのグループの人達と1日ぶりに話したときはコミュニケーションが取れるということがどんなに大事な事かという事を知ることができました。

二つ目は生活の形(スタイル)です。日本とはまるで違いました。まず、アメリカはあまり床に座るという習慣があまりありません。さらに、靴で家の中に入っていくので玄関がないということにも驚きました。

料理に関して言うと、日本ほど凝っているようには見えませんでした。さすがアメリカと言う感じでお肉ならそのまま焼いて切っていくという大胆な形でした。でも、自分が食べるときに味付けをするという形はあまり日本にはなく自分で味を調節出来るのでいいと思いました。お風呂場に関しては驚くことができました。日本の風呂場は浴槽と脱衣所の二部屋ですがアメリカは浴槽、脱衣所、トイレが三つとも同じ部屋にある3点式ユニットバスという形でした。なので、日本とは全然違うのですごく手こずりました。

最後に、僕にとって初めて海外に行くという素晴らしい経験は英語の力を付けるだけでなくコミュニケーション能力や相手の文化や立場を理解し合うことの大切さを改めて実感することができました。

西乙訓高校 二年 長尾 祐希

今回アーリントン団に参加させて頂き、とても素晴らしい経験ができました。僕はアーリントンで「挑戦できることは、全て挑戦する」ということを目標に12日間頑張りました。その中でも特に意識したことは、自分から進んで話しかけコミュニケーションをとることです。その結果、オトソン中学校やアーリントン高校の人たちと仲良くなることができました。自分の英語が通じるととても嬉しかったし、英語を使ってコミュニケーションをとることがとても楽しかったです。

違いもたくさんありました。体験授業をしたときに思ったことは、発表するときなど、誰でも堂々と恥ずかしがらずに意見を言えていたのですごいなと思いました。ほかにも、劇や演奏会を見た時も皆がやりきっていたので本当に感動しました。アメリカ人の良さは、こういうところにもあるので僕らも恥ずかしがらずに真似していくべきだと思いました。アメリカの良いところだけでなく、日本の良いところもアメリカに行ったことで気付くことができました。例えばご飯を食べるとき、「いただきます」や「ごちそうさまでした」という言葉は無いと言っていたので、日本語には素晴らしいところもあるなと思いました。また、その言葉をホストファミリーに教えることができたので嬉しかったです。

大学では英語を勉強してもっと話せる様になりたいです。そしてまた、ホストファミリーに会いに行きたいです。本当に素晴らしい体験をさせていただき、ありがとうございました。

西乙訓高校 二年 土井 彪月

僕は、アーリントンに行くまで、アメリカンフットボールと言うスポーツについて、まったく興味がなかった。アーリントン二日目、ホストファミリーデーの夜、その日の昼にサイクリングに行った時に自転車が人数分無く、自転車を貸してくれた家族の家で晩御飯を食べることになった。他にも、三、四家族集まってみんなでご飯を食べた。

もちろん小学生や中学生の子どももたくさんいた。その中にフットボールを持っている子がいた。そこで、僕達は、フットボールをすることになった。もちろん僕は、何もわからなかった。最初にホストブラザーが教えてくれたが、わからない単語などがあり、全てを理解できていたわけではなかった。

いざやってみると、わからない事もあり、うまくいかなかった。ルールを間違えてしまった時には、動きを交えて数人で協力して教えてくれた。僕は、その時どうしても教えようとするアメリカ人の優しさを感じた。それで、ルールが理解でき、普通にプレイできるようになった。やっている時自然とみんな笑っていた。そして、コミュニケーションもたくさん取れた。プレイ中褒めくれた子もいた、それは、本当に嬉しかった。

それからホストブラザーとアメフトをしに、近くの公園に行った。そして、そこにいた子達と挨拶、自己紹介をして、みんなでアメフトをした。初めての子でもたくさんしゃべってくれた。アメフトと言うのは、やはりスポーツであるためコミュニケーションが必要だ。僕は、それを通して、現地の人に自分から喋ることの大事さ、自己主張の大切さを学んだ。アメリカに行ったすぐの時は、例えば店員さんに品物の値段を聞くことさえ、躊躇していた、しかし、アメフトなどで、たくさんみんなとコミュニケーションを取ったことで自分は、その躊躇もなくなった。

このアーリントンのプログラムを通して、前より自信がついたと思う。本当に、行けてよかった。



THE ARLINGTON TIMES



冒険の始まり→伊丹→成田→ボストン→アーリントン

H27(2015)/4/24

No 1



- ・高校生が伊丹から成田行きの便に乗ったとの連絡があったのが午前7:45でした。
- ・遅れること7時間、午後

2:50に中学生団も飛行機に乗り込みました。

- ・中学生の出発の際には市長をはじめ校長先生方、保護者

の皆様に見送られ、激励の言葉をいただき、生徒・引率者とも感激し、バスに乗車したところです。

- ・それぞれがご家族に挨拶をしている姿をのぞき見させていただくと、本当に家族に愛されて育ってきたんだなあと感じました。

- ・バスの中では、遠山さんから、この交換留学への熱い思いを語っていただき、また、齊藤さんからは、「失敗してもくじけるな。伝わらなくて聞き返されても怖気づかず、チャレンジすること。」を伝えていただきました。



・伊丹空港では持たせていただいた昼食をお腹に収め、残りの時間は写真を撮り合い友好を深めていました。

・今年の生徒たちはいつになく学校の垣根を越えて仲良しです。使命感がそうさせているのか、短期間で密度が濃いトレーニングが結果としてそうさせたのかはわかりませんが・・・

・成田での出国手続きも順調でした。



・コーナーの存在は中学生にとってとても大きいものです。ずっと飛行機の待ち時間はコ

ナーとおしゃべりしながら一生懸命英語のトレーニングをしていました。

・中学生も高校生も順調にフライトすることができ、無事にアーリントンに到着することができました。



・先に到着した高校生たちは今年も訪米をコーディネートしてくださっているジョアン



たちと、ピザをいただいたそうです。

・ピザを食べた後はお庭でフリスビーやバスケ、サッカーで長旅の疲れを癒し、しばしのリフレッシュ。



・その後、中学生の到着を空港まで迎えに来てくれて、再びアーリントンに戻ると、そこにはホストファミリーが待っていてくれました。

・それぞれのホストファミリーに連れられて、各家に散って行ったのは、現地時間の午後7時過ぎだったでしょうか。

・きっと今頃は自己紹介をし、ディナーを頂いて、プレゼントも渡し、長い一日目が終わり、疲れ果てて寝ていることでしょうか。



観覧車前にて

・前日のホストファミリーと過ごす最初の夜、食事は長旅の疲れを考慮してくださってか軽めの物を用意してくださったようですが、機内食がお腹に残り、あまり食べられなかった生徒もいたようです。

・今日は SIX FLAGS に行きました。

・SIX FLAGS というのは遊園地です。しかも絶叫系の乗り

物が多い遊園地です。

・各ホストファミリーの家からアーリントン高校に朝の8:30に集合し、SIX FLAGSまで約2時間のスクールバスの旅です。

・去年は午前中雨が降っており、とっても空いていましたが今年は良い天気となり、お客さんで一杯です。

・この遊園地での行動は、高校生をリーダーとして中高男

女混合のグループ分けを引率者の方で行い、グループ行動で過ごしてもらいます。

・これはランダムに編成されたグループで、今までと違う絆作りを行い、一人になることのないように配慮する(アメリカで一人は辛い)とともに、高校生のリーダー性を高め、縦のつながりを深めることを目的としています。

・ホストファミリーの子ども

達もこのグループと一緒に行動してくれます。

- ・今年が良い天気で混雑していたので乗り物に乗れる数も昨年より少ないようでした。
- ・写真を撮るのも一苦労です。どこにいるのか見つけるのが大変です。
- ・昼食はSIX FLAGSの中で配られたミールクーポンを使って好きなものを食べるのですが、これがこちらに来て初めてのお店での英語注文です。



まだ生徒たちの身体はアメリカの時間に順応できているわけではありませんし、ホストファミリーの家で初めて一晩を過ごしたわけで、極めて高い緊張の中で昨夜を過ごしたはずです。



精神的にも体力的にもきついと思いますが、生徒たちの若い心と身体は柔軟にこの環境に順応していってくれるはず

です。明日はホストファミリーデーです。週明けの月曜日にどんな顔で集まってくるのかとても楽しみです。

スナップショットあれこれ





オトソン中学校→イーグルスレストランで夕食

→スーパーでお買い物→タウンミーティングに参加

H27(2015)/4/27

No 3



シャドーイングをしてくれた生徒たちとともに

・昨日はホストファミリーデーでした。生徒たちにどこに行ったのと尋ねると「ボストン市内観光」「水族館」「ロックポート湾」「美術館」「教会」「Japanese Festival」「ホストファミリーの子供のサッカーの試合を見に行った」「海に行きバレーボール」「ラクロスの試合を見に行った」「ダッ

クテールの船に乗った」「博物館」「MIT」「船のミュージアム」「ポーリング」「農場」「ロブスターを食べに行った」「ホストファミリーの親戚の誕生日パーティー」など。中には「自分の誕生日パーティー」をしてもらった生徒もいるようです。ロブスターを食べさせてもらったものも何人かいて、

うらやましい限りです。また、ホストファミリーの方々の歓迎ぶりが伝わってきます。

・さて、本日から学校訪問が始まりました。

・まずはオトソン中学校です。オトソン中学校には朝の7:15に集合して学校のカフェテリアで朝食をとりました。日本では珍しいことですが、

こちらでは希望すれば学校で朝食が取れます。

・朝食の後には歓迎のセレモニーがあり、嶺太郎が挨拶を行いました。



コーナーもスピーチしました

・セレモニーの後、この旅で初めてのパフォーマンスです。

・「故郷」と「ビリーブ」、「Sweet Caroline」「This land is your land」の4曲を歌い、オトソン中学校からも歌のお返しをしてもらいました。その後に「鳴子踊り」を披露しました。

・音響のトラブルもあり、出

鼻をくじかれた感はありましたが、高校生リーダーのジュンスケのパフォーマンスで観客を巻き込み、見事に踊り切りました。緊張しつつも楽しそうに踊る姿は、スタートとしてはまずまずでしょうか。

・ただ、課題も見つかりました。残りのチャンスで克服していくことをミーティングで確認しました。

・セレモニーの中でオトソン中学校から訪問団員全員にプレゼントを頂きました。

・セレモニーの後には現地の生徒とペアを組んで、その生徒の授業と一緒に入り、他の訪問団員のいない中で授業を受けるを行いました。

・かなり過酷な挑戦だったと思います。みんなさすがに、疲れた顔をして戻ってきました。口々に授業内容が全く分からなかったと嘆いているのを見るのは毎年の光景です。

・ただ、数学は万国共通の部分があり、計算はできたようで満足感を感じたようです。

・その後、オトソン中学校の計らいで「オトソンレッドカーペット」と称してハリウッドのレッドカーペットのように赤じゅうたんの道を仮装して歩き、インタビュアーから英語でインタビューを受けました。この光景をオトソン中学校の生徒が撮影していました。

・オトソン中学校を後にして、バスでイーグルスレストランに行きました。ここには2年前まで長岡京市でAETとしてお世話になった、ジャスティン先生がわざわざ来てくださり連れて行ってくださいました。ここには、ハンズの間にはハンバーグが10枚挟まった、タワーのようなハンバーガーがあります。それをみんなでシェアして美味しくいただきました。

・その後、タウンミーティングに参加の予定でしたが、少し時間がありましたので、近所のスーパーで買い物タイムとなりました。

・夜8時からタウンミーティングに参加しました。タウンミーティングというのは長岡京市でいえば、少し形は違いますが市議会です。だから、市議会の開会日にゲストとして参加し、紹介していただき、大きな拍手を頂いたとお考えください。町全体がいかにおもてなしされているかがわかるはずですよ。

・長い一日でした。昨日記事が書けなかった分、少し長くなってしまいました。

・この冒険も三分の一が終了したくらいでしょうか。この生徒たちは「打てば響く生徒たち」だと確信しています。もう一段ギアを上げていければと思います。



ウィルソン農園→フェンウェイパークツアー→ボストンコモン

H27(2015)/4/28

No 4



・今日は 8:30 に集合して、まずは Wilson Farm Tour に行きました。ここでは農園の裏側を見せてもらい、種の蒔き方や苗の作り方、生産物の洗浄方法などを英語で説明していただきました。

・生徒たちには大切な勉強です。説明して下さった農園

の方の英語はとてもわかりやすく、聞き取れた生徒も多かったようです。

・山羊やニワトリ、豚にラマにも会えました。

・その後はお待ちかねの Fenway Tour(レッドソックスのホーム球場の見学)です。

・このツアーと明日のボール

ゲームが一番の楽しみとしている生徒は結構います。

逆に球場というところに来たのが初めてという生徒もいます。なかなか贅沢な球場デビューです。

・観客席に実際に座り、説明を聞くだけでなく、プレス席にも入れていただき、生徒た

ちはかなり興奮していました。

- ・さらに今回が初めてになると思うのですが、フィールドの中に入れてもらいました。(巻頭の写真はその時のもの)
- ・子供達も引率者も大興奮です。
- ・本当かどうかわかりませんが、フィールドの中に入ることができるのは、年に数回しかないとの事。案内をしてくれた人も「私の写真を撮って」とカメラを渡してきたのでまんざら嘘でもないのかもしれませんが。
- ・その後は、フリーダムトレイルを使ってオリエンテーリングを行いました。フリーダムトレイルとは、道路に描かれた赤い線で、この線をトレースしていくとボストンの有

名な観光地を巡る事ができます。

- ・その中で「最も古い教会の写真を撮れ」とか「レッドソックスの帽子をかぶった人の写真を撮れ」といったミッションをこなしていきます。
- ・時間が少なく、すべてのミッションは無理ですが、グループで楽しく過ごしていました。
- ・このミッションのゴール地点で昼食です。各自でたくさんのお店から食べたいものを選び、買って食べました。みんな思ったよりも、値段を気にしています。結構しっかり者ですね。
- ・その後は州議事堂に行きました。ガイドの英語の説明を西山先生が通訳してくださり、

日本で勉強した以上に深く、政治や経済を知ることができました。

- ・今日の最後は、バスが来るまで、ショッピングモールで買い物タイムです。
- ・ショッピングモールには徒歩でボストンコモンというアメリカでもっとも古い公園の中を歩いていきます。
- ・この公園には野生のリスがたくさんいます。生徒たちの目はリスに釘付けです。アメリカ人は見向きもしませんが・・・
- ・ショッピングモールではそれぞれに欲しいものを探してゲットしていました。
- ・今日は一日、とってもたくさん歩きました。

スナップショットあれこれ





THE ARLINGTON TIMES



ダーリン小学校→ハーバード大学

→ハーバードスクエアで買い物→レッドソックス試合観戦

H27(2015)/4/29

No 5



・今日はまずダーリン小学校を訪問しました。8:15に学校に集合して、早速体育館に入り歓迎のセレモニーがありました。マユコがスピーチを行



い、その後小学生から生徒一人一人に手作りのちぎり絵をいただきました。



・セレモニーの後は現地の小学生が歓迎の歌を歌ってくれ

ました。



・その後生徒たちは「If You're Happy」「ビリーブ」「This land is Your Land」の三曲を披露しました。



・小学生は正直です。良いと感じたものには惜しみない賞賛をしてくれますが、そうでないときは、集中が切れてしまいます。



・今回の歌の発表のときの小学生の目の輝きと惜しみない拍手を、歌っている生徒も確実に感じ取っていました。

・良いパフォーマンスをすれば賞賛される。その賞賛をエネルギーにさらに良いパフォーマンスを繰り広げる。こんなプラスのスパイラルが今回の小学校訪問でした。

・圧巻は「鳴子踊り」です。今回も、音響トラブルが起き、なかなか音楽が始まりません。

しかし小学生の集中はあまり崩れません。次に演じてくれる出し物への期待がいっぱいだからでしょうか？

・気を取り直して演じた鳴子踊りは、小学生の心を鷲掴みにしました。割れんばかりの拍手と歓声に包まれ、鳴り止まぬ拍手の中で、今回の冒険で一番の達成感を感じたのではないのでしょうか。

・その後は、グループに別れ、可愛いガイド(多分二年生)に連れられて校内を案内してもらいました。

・次の時間は、準備してきた書道・けん玉・折り紙を二年生に教える時間です。

身振り手振りを交えながら必死に伝えます。時間の経過とともに教える方も教えられる方も笑顔が出てきます。笑顔はさらにコミュニケーションを豊かにします。伝わる事は嬉しい事です。そんなコミュ

ニケーションの原点を感じてもらおうのがひょっとするとこのプログラムの最大の目的かも知れません。

・26人はそれぞれに伝えよう、わかってもらおうと努力していました。

・その後集合し、校長先生と一緒に写真を撮り、ダーリン小学校を後にしました。

・次に向かったのはハーバード大学です。ここでは、ハーバード大学の学生にキャンパスを案内してもらいました。



・カリフォルニアから来た19歳のハーバード大学生です。英語の説明を飯原先生と小川先生に訳してもらいながら校内を周りました。生徒たちは積極的に質問しながら、世界最高峰の大学に憧れを感じていました。

・その後はハーバード大学の生協とその周辺での買い物です。多分この旅一番の買い物スポットです。買い物カゴの中のアイテムの品数を数えながら、楽しそうに買い物をしていました。

・その後は、いよいよ野球観戦です。早めに球場につつま

したのでオフィシャルショップで買い物したり食べ物を買ってお腹を満たしたり、選手のウォーミングアップをカメラに押さえたりと思いおもいに試合開始を待ちました。

- ・この観戦にはホストファミリーもたくさん参加しており一団で球場の一面を占めまし

た。

- ・さて試合は八回には田澤、九回には上原が投げ、見事勝利しました。
- ・この試合の途中、アーリントン側の配慮で、「アーリントンー長岡京交換プログラム」というクレジットが電光掲示板に映されました。

- ・また、試合終了後、フィールド内を走ることが出来るイベントがたまたまあり、みんな楽しそうにダイヤモンドを回っていました。
- ・長い一日でしたが、収穫も多かった一日となりました。

スナップショットあれこれ



スナップショットあれこれ





THE ARLINGTON TIMES



アーリントン高校→図書館→アイス→ミュージカル

H27(2015)/4/30・5/1 合併号

No 6



まずは報告できていない昨日の様子を簡単にご報告します。

10人バラバラで、それぞれが地元の高校生に影のようにつついて1日を過ごすという、シャドーイングをしました。

・数学は何とか分かるというのは中学校の時と同じです。残りは全くダメ。精魂尽き果てた様子でした。引率の先生も遠くから見守る程度で、予定通りではあるものの、とても厳しい1日となりました。



・昨日は中学生と高校生は別行動です。
・高校生はアーリントン高校で丸一日シャドーイングです。





・中学生は高校の近くの公園で時間を調整して、蝶々の博物館に行きました。公園では生徒たちは「鬼ごっこ」や「だるまさんが転んだ」などに興じていました。



・その後、バタフライレイスへ行きました。蝶々が近付くとみんな喜びのかと思ったら、結構嫌がる生徒がいます。ここで、ホストファミリーに持たせてもらった昼食を食べ



ました。

・その後キンボールファームへ行きました。ここのアイスはコーナーお勧めです。確かに美味しく、種類も豊富でした。ただ、サイズが大きい。一番小さいキティサイズでも日本のサーティワンアイスのダブルより大きいです。今年の生徒達は賢明で儉約家も多いので、シェアして食べている生徒が多かったです。



・その後は bamboo ボートやビーチバレーのコートでみんなで仲良く遊び、親睦を深めていました。中学生と高校生とで大きな違いのある1日になりました。



・さて本日は、中学生も高校生もアーリントン高校への訪問です。高校生だけの昨日とは異なり、グループで授業に参加します。美術や演劇、体育や国語(英語)といった授業に参加しました。

・体育は去年は体育館の中でしたが、今年は外で壁登りや柱登りをしました。



・全員自分でハーネスをつけて登ります。アクティブな授業は、コミュニケーションが取りやすいです。かなりの高いところまで登りました。とってもとっても楽しそうでした。

・その後、高校でランチをいただきました。ほしいものをほしいだけとれるバイキングスタイルなので、かなりの量を平らげている生徒もいました。



・ランチの後はグループに分かれて、学校見学です。



- そのあと集会となり、ジュンスケのスピーチとプレゼント交換の後、歌と鳴子踊りを披露しました。今回の歌は、「故郷」、「ビリーブ」、「Sweet Caroline」に先立って、高校生だけで「ダンシングクイーン」を披露しました。また、歌に続いて鳴子踊りを披露しました。
- このパフォーマンスが最後のパフォーマンスです。できる限

りの笑顔と、感謝を込めた歌、気合の入った全力の踊りに対して大きな拍手を頂き、終了後もアーリントンの高校生たちがたくさん寄ってきてくれて、話しかけてくれていました。本当によく頑張りました。

- アーリントン高校を後にしてロビンス図書館を見学させていただき、少し時間があつたので、昨日高校生が食べられなかった



こともあり、アイスクリーム屋さんに寄りました。

- その後、一旦ホストファミリーの家に帰り、夕食を済ませ、オトソン中学校で再集合しました。
- これは「オトソンプレイ」として中学生が演じるミュージカルを観賞するためです。このミュージカルのクオリティがびっくりです。中学校や高校の文化祭を想像していましたが、想像をはるかにしのぐ素晴らしいものでした。
- さすが、ミュージカルの本場の国でした。
- 本日も長い一日でした。

スナップショットあれこれ



スナップショットあれこれ





・学校訪問も昨日で終わり、今日は快晴の中、レキシントン・コンコードを巡るツアーです。独立戦争当時を巡るプチ遠足です。

・スクールバスで独立戦争開戦の地、コンコードに行き、バックナムターバンで日本語の解説が聞ける機器を片手に

開戦が近づく植民地軍の様子を学びました。

・その後はバスと徒歩での遠足です。

・道中アート・クラフトビルディングに立ち寄り、店の前にあるピアノを見つけるとリンがピアノの前に座り、しばしの合唱タイム。ピアノの周

りに自然と生徒たちの輪が出来上がり、「ビリーブ」を歌い始めました。ピクニックの最中にピアノを見つけて、歌い始めるなんて結構いけるチームだと思いませんか。

・他にも開戦当時を解説する映画を見ることができるビジターセンターに立ち寄り、映

画を見ました。ビジターセンターを出るとちょうどその当時のコスチュームに身を包んだ鼓笛隊のイベントがあり、いくつかの鼓笛隊が行進していました。聞くとところによるとアーリントンの鼓笛隊も出ているそうです。

・春の陽気の中でハードスケジュールから解放され、のび

のびとした時間を満喫していました。緑の広場を生き生きと走り回る彼らを見てると、昨日までのハードスケジュールにストレスを溜めながらも頑張ってたんだなと思います。

・ツアーの最後には買い物の時間もあり、残り少ないアメリカでの時間を満喫していました。

・この後一旦家に戻り、早めの夕食を済ませ、タウンホールに再集合です。

・これは、アーリントンハイスクールのポップスコンサート鑑賞のためです。合唱、ジャズバンド、管弦楽とバラエティーに富んだ迫力ある演奏を楽しみました。

スナップショットあれこれ





クジラウォッチング→フェアウェルパーティ

H27(2015)/5/3

No 8



- 本日が実質的な最終日です。
- 高校に集合して、スクールバスで、ノースシュアのビーチに行きました。
- 一時間程度のフリータイムをいただき、砂や波とたわむれました。
- 今回の旅で、雨具を使った

ことは一度もありません。今日もとっても素敵なお天気です。遅れていた春が大慌てでやって来てくれました。

- 裸足になって波打ち際ではしゃいだり、砂浜でアメリカンフットボールやフリスビーに興じたりと実に楽しそうで

した。

- アーリントンでの生活を共にし、成功や失敗を共有し、いくつものミッションを乗り越えてきた仲間として、友情を確かめ合い、絆を深め合っている彼らの姿は、ほほえましくも、頼もしく映ります。

- その後、港へ移動し、クジラウォッチングです。船に乗って一時間程度でクジラの出現スポットへ到着です。
- あちこちにクジラは現れてくれます。その度ごとに、「〇〇時の方向」と館内放送があり、みんな一斉にそちらへ移動。思ったよりたくさんのクジラを見ることができました。何頭いたのかは分かりませんが、姿を確認できた回数は何十回とありました。
- ただ、うまく写真に収めるのは、なかなか難しいです。
- 船酔いを心配しましたが、ほぼ無事でした。少し気分の悪くなった生徒もいるかもし

れませんが…。天気も風に当たれば冷えますが、風を避ければ対応できる範囲でした。

- 夕方からはフェアウェルパーティが行われました。
- ホストファミリーが一堂に会し、食べ物を持ち寄ってのパーティです。このようなホームパーティも初体験です。アメリカの大きな家の庭でともに過ごした仲間とお世話になったホストファミリーと過ごすパーティーは、手作りの暖かさと優しさを感じました。
- 中学生、高校生のリーダーがスピーチを行い、「鳴子踊り」、「ダンシングクイーン」、「ピリ

ーブ」を披露し、最後は「長岡京音頭」をホストファミリーとともに踊りました。

- パーティが終了しても、別れを惜しみ、目を赤くし、写真を撮り合っていました。
- そして、ホストファミリーとの最後の夜を迎えました。明日は帰国です。きっと今頃はお土産をスーツケースに入れ、そして、入りきらないほどの思い出を胸に詰め込んでいることでしょう。
- これが「アーリントン便り」の最終号です。

スナップショットあれこれ



Ⅱ 来訪の部

1. 訪日団員名簿

氏 名	
Abigail tenBroek	アビゲール・テンブロック
Asa Minter	エイサー・ミンター
Cheryl Kohl	シェリル・コール
Grace Biondi	グレイス・ビオンディ
Jordan Hodges	ジョーダン・ホッジス
Michael Dillon	マイケル・ディロン
Myles Goldstein	マイレス・ゴールドステイン
Nicolas Tapiero	ニコラス・タピエロ
Pablo Opperman	パブロ・オパーマン
Patric O'toole	パトリック・オートウオー
Sabrina Blasik	サブリーナ・ブラシク
Sasha Berryman	サシャ・ベリマン
Sophie Krajewski	ソフィー・クラユスキー
Taso Tsaousidis	タソ・サウシディス
Christopher Mahoney	クリストファー・マホニー
Kristen Sandstrom	クリスティン・サンドストロム
Lauren Richmond	ローレン・リッチモンド

2. 訪日日程

月 日(曜日)	時 刻	行 程
7月8日(水)	19:50 21:00	伊丹空港 着 長岡京市役所到着後、各ホストファミリー宅へ移動
7月9日(木)	9:00 10:15 13:30 16:00 17:45	市長表敬訪問 光明寺見学 清水寺見学 伏見稲荷大社見学 ホストファミリー宅へ移動
7月10日(金)	8:30 14:15 17:15	長岡第三小学校で交流プログラムに参加 東映太秦映画村散策 ホストファミリー宅へ移動
7月11日(土)		ホストファミリーデー
7月12日(日)		ホストファミリーデー
7月13日(月)	10:00 14:00 17:00	大阪グランフロント散策 梅田スカイビル散策 ホストファミリー宅へ移動
7月14日(火)	9:30 15:00 17:00	楊谷寺見学 乙訓高校で水球体験 ホストファミリー宅へ移動
7月15日(水)	8:30 17:00	西乙訓高校で交流プログラムに参加 ホストファミリー宅へ移動
7月16日(木)	8:20 17:00 18:00	長岡第三中学校で交流プログラムに参加 ホストファミリー宅へ移動 フェアウェルパーティーに参加
7月17日(金)	10:30 18:15	JR長岡京駅 発 成田空港 発

3. 訪日団引率者挨拶

Speech by Mr. Mahoney Christopher
マホーニー・クリストファー訪日団団長挨拶

On behalf of the students and chaperones from Arlington, I want to thank all of the people in our sister city of Nagaokakyo for welcoming us into your schools, temples, and homes.

長岡京の学校や寺院、そして家庭に暖かく迎え入れてくださったことに対し、アーリントンの生徒及び引率者を代表し、みなさまに心よりお礼申し上げます。

Over the past nine days, we were able to meet important politicians, school leaders, and monks. We also became friends with our host families, as well as the students in the schools. These are experiences that we will certainly take back to America, which will allow this knowledge to spread to many other people in Arlington and the United States.

九日間にわたり、私達は行政関係者の方々、学校の代表者、僧侶などにお会いさせていただきました。また、ホストファミリーはもちろん、学校の生徒とも関係も深めることができました。この経験を持ち帰り、アーリントンやアメリカの多くの人々に伝えていきたいと考えています。

During this exchange, the students lived with people in the country and learned their culture while forming bonds that will last their entire lives. I know this is true because I am still friends with my host family and all of the other important people that I met three years ago.

交流期間中、生徒達はこの国の人々と生活を共にし、絆を育みつつこの国の文化を学ぶことができました。この絆は、彼らの今後の人生に影響を与え続けることでしょう。私自身も、三年前に出会ったホストファミリーや関係者の皆様と、今でも交流をさせていただいています。

Although I am sad that I will be leaving everyone once again, I know that it is not forever because the relationship between our two cities grows stronger every year as more people take part in this exchange. I want to see many of you in our home town of Arlington and I hope that we are as good hosts as you were to us. Domo arigato gozaimashita.

再び皆様とお別れするのは悲しいですが、このお別れは永遠ではありません。なぜなら、両市の関係が、この交流に参加する人が増えるにつれて、毎年強くなっていくからです。今度は、私たちの故郷アーリントンで皆様にお目にかかりたいと思います。皆様のように、私達も良きホストでありたいと望んでいます。どうもありがとうございました。

4. 訪日団生徒挨拶

Speech by Ms. tenBroek Abigail
生徒代表テンブロック・アビゲールの挨拶

My name is Abigail tenBroek. I am so happy to be here.

私はアビゲール・テンブロックです。日本に来ることができて、とても嬉しいです。

I am so grateful for the opportunity to come to Japan, and not only am I lucky enough to come here, but I get to stay with an incredible host family who lets me see what your culture is like.

日本に来る機会に恵まれたことにとても感謝しています。ただ幸運であるというだけでなく、日本の文化がどんなものか教えてくれる素晴らしいホストファミリーと過ごせることに、私はとても喜びを感じています。

I have been impressed with Nagaokakyo and how beautiful it is. It has always been a dream of mine to go to Japan. I want to thank you for making my dream real. Domo arigato gozaimasu.

来日してから、ずっと長岡京の美しさに感銘を受けています。日本に来ることがいつも夢でした。私の夢をかなえてくださったことに感謝したいです。どうもありがとうございます。



アーリントン訪日団 友好紀行



長岡京市教育委員会 学校教育課 第1号

★★主なプログラム 平成27年7月8日～10日★★
大阪空港到着、光明寺、清水寺、伏見稲荷大社、長岡第三小学校、太秦映画村
Arrival (Osaka Airport), Kiyomizudera, Komyoji, Fushimiinari Taisha,
Nagaoka Elementary School No.3, Uzumasa Movie Park



市長を表敬訪問しました。
Students meet the new mayor!



ジャンケンゲームで、友達がたくさんできました。
Arlington Students lose the train game!



清水の舞台で、集合写真を撮りました。
Students on bridge with no nails!



子どもたちに質問攻めにあっています。
Pablo gets grilled during the interview!



伏見稲荷大社で、参拝前に手を清めました。
Purifying before entering Fushimiinari!



忍者屋敷の前で、はいポーズ！
Posing before entering Ninja house!



アーリントン訪日団 友好紀行

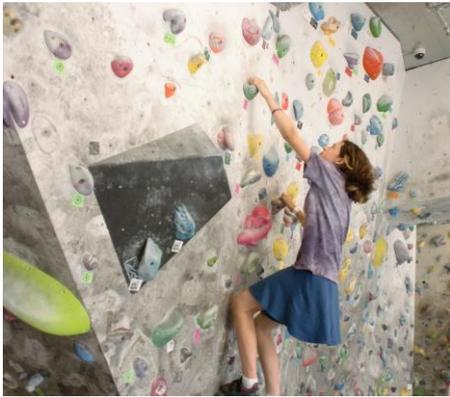


長岡京市教育委員会 学校教育課 第2号

★★主なプログラム 平成27年7月13日～14日★★

大阪観光、柳谷観音楊谷寺、乙訓高校

Osaka, Yanagidani Kannon Yokokuji, Otokuni High School



グランフロントで、ロッククライミングに挑戦！
Students climbing out of Grand Front!



近畿大学の完全養殖マグロをいただきました。
Kinki University's king of tuna!



空中庭園から、大阪を一望！
Floating above Osaka!



柳谷観音楊谷寺で、大提灯にびっくりしました。
Holding up the big lantern!



写仏体験で、観音様の御心に触れました。
Taso, Cheryl, and Buddha!



乙訓高校で、水球の試合をしました。
Perfect weather for water polo!



アーリントン訪日団 友好紀行



長岡京市教育委員会 学校教育課 第3号

★★主なプログラム 平成27年7月15日～16日★★
西乙訓高校、長岡第三中学校
Nishiotokuni High School, Nagaoka Junior High School No.3



西乙訓高校で、流しそうめんをしました。
A traditional bamboo chute for noodles!



長岡第三中学校で、漢字の名前をもらいました。
Calligraphy 101-summer school sessions!



茶道体験で、日本式の礼儀作法を学びました。
A Japanese take on tea time!



スイカ割りです。スイカヘルメットは叩かないで！
Watermelon, pumpkin...or student?



弓道は安全第一なので、みんな真剣です。
Katniss Everdeen training in Japan!



さよならパーティーで、別れを惜しみました。
So long! Farewell! Matane! Good-bye!